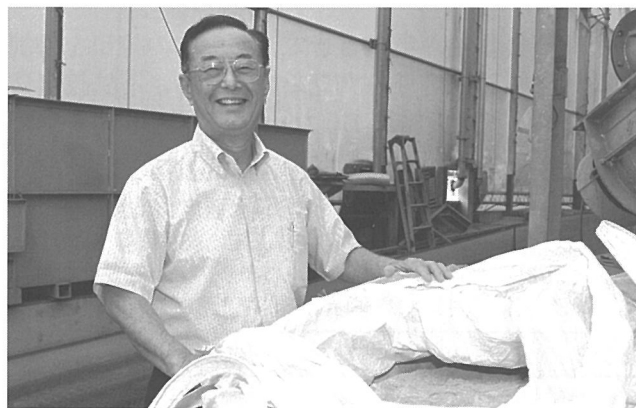


企業訪問 資源循環レポート

有限会社メイコウ工業



廃石膏ボードのリサイクルに特化 一 永石膏のままでも有効利用 CO₂削減に大きく貢献



固化材を前に話をされる篠原社長

今号では、有限会社メイコウ工業（西三河支部）の代表取締役 篠原秀則氏に廃石膏ボードの100%リサイクルについてお話を伺いました。

■会社概要

法人設立は平成17年11月

事業内容は、建設廃棄物中間処理（廃石膏ボード専用リサイクル）・収集運搬、建造物解体工事、固化材製造販売

同社製品は「あいくる材」認定資材になっています。

3R（Reduce・Reuse・Recycle）を理念にリサイクルエコロジー企業として、常に新しいことに挑戦し続けています。

■社風が

元々は、同社の会長様が大手化学関連企業勤務のご出身であり、工学博士だったことから、工業系大学と連携していろいろな実験を重ね、製品開発を行っていた土壤があったとのこと。

また、篠原社長自身は大手自動車会社のご出身で、ものづくりに長け、研究熱心なこと等々から、低コスト、高性能なものづくりへのこだわりと粘り強さが社内に浸透していました。

■固化材製造から再利用まで

年々増加の一途を辿る廃石膏ボード。有効利用す



有限会社メイコウ工業

■代表者／代表取締役 篠原 秀則

■所在地／愛知県みよし市明知町八和田山2番地17

TEL 0561-33-2526 FAX 0561-34-3250

るため、地盤改良用の固化材原料に着目し、使用用途開発・製品開発には、専門研究機関及び関連のある教育機関等の協力を得て開発を進めています。

搬入された廃石膏ボードは受入ヤードに運び込まれ、破碎機にて破碎されたのち、磁選機にて異物を除きます。この破碎、分別、磁選機による選別を数回繰り返し、さらに目視確認を行います。

本来、受入時に廃石膏ボードに異物は除かれて搬入されるのですが、石膏ボードに埋め込まれている金属類が見つかることもあるため、同社では入念な選別を実施しています。

廃石膏ボードの再生利用は大きく分けて、「紙」と「石膏粉末」になります。

「紙」は、古紙原料、RPF燃料温度調節、透水性アスファルト添加剤、建築資材原料へ、「石膏粉末」は、石膏ボード、セメント原料、肥料原料、固化材（地盤改良材原料、土壌改良材原料、汚泥固化材原料）へと生まれ変わります。

また、各現場の土に合わせて固化材の配合は基本16種類ありますので配合が可能です。全て自社生産の再生材と製造技術を駆使して大幅なコスト削減を実現させています。

工場内は全てシステム化され、作業に当たるのは少人数で運営をしています。

■二水石膏のままだからこそ

廃石膏ボードの石膏は、2分子の水を結晶水として保持する「二水石膏」であり、これを焼成して半

水石膏や無水石膏にすることにより、固化剤としての効果は上がります。

しかしながら、焼成には燃料のコストが生じますし、CO₂が排出されてしまいます。

そこで、同社では環境負荷を低減し持続可能社会に貢献するため、あえて二水石膏のまま固化剤としてリサイクルしています。

ご苦労されたことは、少数精鋭での運営につき篠原社長自身が足を運ぶ営業をされ、何度か訪問するうちに、製品開発の姿勢に信頼をしていただけたそうです。

固化材といっても奥が深く、その都度お客様の要望や問題点を解決するため、多くの機関、また多くの方の知恵をお借りし、多種多様な工業薬品で試験を繰り返し行い、一流メーカー品に引けを取らない良品質で低価格品を今後も作り続けていかれるとのことです。



(有) メイコウ工業
ホームページサイト



固化材製造装置



固化材のトンバッグ詰め



室外の集塵機



破碎分別された紙



篠原社長（左から3人目）と社員の皆様（一部の方）